

『日本語教育』執筆の手引き

1. 使用言語

使用言語は日本語または英語とします。

2. 投稿原稿の構成

投稿原稿は、次の部分から構成されるものとします。この順序で書いてください。

- (1) 投稿カテゴリー（「論文：①研究」「論文：②実践」「論文：③調査」「研究ノート」のいずれかを記載のこと。）
- (2) 論文タイトル
- (3) 要旨(和文論文の場合：400文字以内／英文論文の場合：250ワード以内。要旨末尾に括弧書きで文字数（英文の場合はワード数）を記載のこと。）
- (4) キーワード（原稿中の主要語句を1語以上5語以内）
- (5) 本文（図表を含む）
- (6) 注（必要に応じて）
- (7) 参考文献・資料一覧

投稿原稿には、執筆者名、所属機関名、および執筆者が推測されるような内容（謝辞、科研費をはじめとする助成金の情報など）は書かないでください。「拙著」「筆者はXXX(1997)において…」等のような表現の使用も避けてください。詳しくは、「[論文投稿FAQ](#)」の「引用について」を必ず参照にしてください。

論文末の英語要旨（和文論文）および日本語要旨（英語論文）については、査読を経て、採用が決まったあとに提出してください（詳細は採用決定時にお知らせしますが、約2週間以内での提出を求めます）。

3. 投稿原稿の書式・分量

投稿の際の提出書類は、学会ホームページからダウンロードした書式を使用して作成してください。

論文ファイルのアップロード（提出）にあたっては、この手引きの最終ページにある「『日本語教育』原稿本体についての自己点検票〔提出不要〕」*の諸項目を参照して、最終的な確認をしてください。このリストは投稿者ご自身による点検用であるため、提出は不要です。※上記「自己点検票」とは別に、論文ファイルのアップロードにあたり、マイページ画面でチェックが求められる項目を、「[『日本語教育』投稿論文チェックリスト](#)」として公開しています。「研究倫理上の確認事項」等、投稿にあたって**必須の確認事項**となっておりますため、執筆にあたり事前に必ずご確認ください。

- 投稿原稿は「A4判横書き、40字×39行」で作成する。原稿はwordで作成し、図表を含め、できるだけ仕上がり紙面に近い形で原稿を作成する。
- 図表を含め、モノクロで作成する。
- 分量は「2.投稿原稿の構成」の(1)～(7)が次の分量に収まるようにする。
 - 論文（①研究・②実践・③調査）
 - 和文の場合は14ページ以内、英文の場合7,000ワード以内
 - 研究ノート 和文の場合は7ページ以内、英文の場合3,500ワード以内
- 『日本語教育』はB5判のため、図表等は縮小率を十分考慮して作成すること。
- 本文は明朝10ポイント、英数字はTimes New Roman（英文の場合、Times New Roman 10pt）、各章および各節の見出しはゴシック10ポイント（太字にしない）（英文の場合、Times New Roman 10pt, bold font）とし、行間も統一する。要旨、注、参考文献・資料は日本語も英語も文字を9.5ポイントとし、それ以上小さくしたり、行間をつめたりしな

いこと。

- 句読点は、日本語は全角の「,」,「。」, 英語は半角の「,」,「.」で統一する（表題も含む）。
- 本文にはページ番号を記載する。
- 各ページの左余白に行番号を記載する（ソフト上で設定すれば自動的に記載される、テンプレートには設定済）。
- 注は、脚注ではなく後注にし、注の番号は(1), (2), (3)...とする。
- 図表の文字は、日本語も英語も基本的に 8 ポイントにする（強調などのため、これより大きいポイントの文字を部分的に使うことは可能）
- 図表の題字はゴシック 9 ポイント（英文の場合、Times New Roman 9pt）にする。太字にする必要はない。
- 表番号と表題および図番号と図題は図の上に記載する。

4. 引用

文献を引用する場合には、以下の基準に従ってください。

- 単著文献を引用する場合、日本語でも英語でも以下のように著者の姓と発行年を表記する。但し、括弧は、和文論文では全角を、英文論文では半角を用いることとする。

例) 和文論文に日本語文献を引用する場合：横山（2008）によれば・・・。
・・・である（横山，2008）。

英文論文に文献を引用する場合：Anderson (1983) found....

...as has been shown (Anderson, 1983)

翻訳書を引用する場合（原著出版年/翻訳出版年）のように提示する：

レイヴ&ウエンガー（1991/1993）は・・・。

- 共著文献を引用する場合、著者が 2 人の時には常に両方の著者名を表記する。
例) 和文論文に日本語文献を引用する場合：佐藤・鈴木（2019）によれば・・・。
和文論文に英語文献を引用する場合：Sato & Suzuki（2019）によれば・・・
英語論文に文献を引用する場合：Sato and Suzuki (2019) found....
著者が 3 人以上の時は、文献が初出の場合から筆頭著者のあとに「ほか」（英文の場合は et al.）をつける。
- 一つのカッコ内に複数の引用文献を併記する場合、日本語文献（筆頭著者の姓の五十音順）、外国語文献（筆頭著者の姓のアルファベット順）の順に以下のように配列する。
例) ~である（佐藤，2015；鈴木，1988；Anderson, 1984；Sato & Suzuki, 2019）。
- 同一著者、同一出版年の異なる文献を引用する場合は、本文中に登場する順に出版年のあとに a, b のようにアルファベット順に記号を入れる。
例) 佐藤（2019a） 佐藤（2019b）
- 同一著者の単著と共著がある場合は、単著を先にする。
- 引用箇所の頁を示す必要がある場合は、以下のように記す。和文論文のカンマは全角を基本とするが、以下の例のように、英数字の間の「半角カンマ+半角スペース」を用いる。
例)（鈴木，2009, p.35） （佐藤，2015, pp.47-49）

5. 参考文献・資料

参考文献とは、本文中で引用、言及されている先行研究をいいます。本文中で引用、言及したものはすべて記載してください。一般的に入手が難しい、未公開の卒業論文や修士論文、科学研究費補助金等による研究報告書などを引用することは、原則としておやめください。資料とは、分析の対象とした一次資料をいいます。これらは、参考文献とは別に記載してください。

5-1 和文論文での書き方

参考文献と資料の書き方は、以下の基準に従ってください。英文論文の References に

英語以外の文献情報を記す場合は、5-2のルールを参照してください。

- 論文原稿の最後に、章番号をつけずに参考文献という見出しをつける。資料を載せる場合は、参考文献の後に、資料という見出しをつける。
- 各文献の冒頭には、括弧付きの通し番号をつける。
- 参考文献は、日本語による文献（以下、日本語文献）と、外国語（英語、中国語など）による文献（以下、外国語文献）とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献、の順に記載する。日本語文献は、第一著者の姓の五十音順に配列し、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。各文献の冒頭には、括弧付きの通し番号をつける。
- 英文論文の書名および論文名は、最初の語、コロンやダッシュ直後の語、および固有名詞は大文字で始め、それ以外の語は小文字で始める。
- 著者名の姓と名の間に半角スペースを入れる。訳書の場合など、著者をカタカナで記載する場合も、姓、名の順にすることを原則とし、姓と名の間に半角スペースを入れる。
- 複数の著者名の場合、著者名の間は、かな漢字名、カタカナ名もすべて「,」で区切る。
- 記載すべき情報
 1. 単行本<単著、共著>の場合：著者、発行年、書名、出版社名
※外国語文献では、書名はイタリック体にする。
 2. 単行本<分担執筆>の場合：分担執筆者、発行年、当該章の題名、編者、書名、章号、出版社名、ページ
※外国語文献では、書名はイタリック体にする。
 3. 学術論文の場合：著者、発行年、題名、雑誌名、巻（必要に応じて号数も）、ページ
※外国語文献では、雑誌名および巻番号はイタリック体にし、号番号はイタリック体にしない。
 4. 博士論文の場合：
未公開の場合：著者、発行年、題名、[未公開博士論文]学位授与大学名
オンライン公開されている場合：著者、発行年、題名、[博士論文、学位授与大学名]、URL
 5. 学会発表予稿集（論文集）の場合：著者、発行年、題名、予稿集名（論文集名）、ページ
 6. 教科書の場合：著者、出版年、教科書名、出版社名
※外国語の場合、書名はイタリック体にする。
 7. インターネット情報の場合：当該情報が記載されているウェブサイトなどのアドレス
※情報更新がされるページについては、資料にアクセスした日付を括弧付きで記載する。
- 記載例
 - 1) 単行本<単著、共著>
横山 紀子 (2008) 『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』 ひつじ書房
レイヴ ジーン、ウェンガー エティエンヌ (1991)、佐伯 胖 (訳) (1993) 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』 産業図書
Anderson, J. R. (1983). *The architecture of cognition*. Harvard University Press.
 - 2) 単行本<分担執筆>
松見 法男 (2002) 「第二言語の語彙を習得する」海保 博之、柏崎 秀子 (編) 『日本語教育のための心理学』 第6章、新曜社、97-110。
MacWhinney, B. (1989). Competition and connectionism. In B. MacWhinney & E. Bates (Eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp. 422-457). Cambridge University Press.
 - 3) 学術論文

宇佐美 洋, 森 篤嗣, 広瀬 和佳子, 吉田 さち (2009) 「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140, 48-58.

Coxhead, A. (2000). A new academic word list. *TESOL Quarterly*, 34(2), 213-238.

4) 博士論文

小森 由里 (2005) 『人称詞の研究 社会ネットワーク理論の観点から—和歌山県紀南地方の一親族の事例より—』[未公開博士論文] 国際基督教大学

Matsushita, T. (2012). *In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach* [Doctoral dissertation, Victoria University of Wellington].

<http://researcharchive.vuw.ac.nz/xmlui/handle/10063/4476>

5) 学会発表予稿集 (論文集)

迫田 久美子, 松見 法男 (2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) —音読練習との比較調査からわかること—」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 241-242.

Naismith, B., Han, N., Juffs, A., Hill, B., & Zheng, D. (2018). Accurate measurement of lexical sophistication with reference to ESL learner data. In K. E. Boyer & M. Yudelson (Eds.), *Proceedings of the 11th International Conference on Educational Data Mining* (pp. 259-265). International Educational Data Mining Society.

6) 教科書

日本 花子, 東京 次郎, 大阪 美子 (編) (2006) 『上級者のための日本語 (2) —読解編—』日本語教育書房

7) インターネット情報

国立国語研究所 (2015) 『複合動詞レキシコン』 <https://db4.ninjal.ac.jp/vvlexicon/>

日本語教育学会『日本語教育』投稿要領 <http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq> (2017 年 6 月 2 日)

8) 以上の 1~7 に登場した文献が参考文献であれば, 下記のように配列して記載する。

(1) 宇佐美 洋, 森 篤嗣, 広瀬 和佳子, 吉田 さち (2009) 「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140, 48-58.

(2) 国立国語研究所 (2015) 『複合動詞レキシコン』 <https://db4.ninjal.ac.jp/vvlexicon/>

(3) 小森 由里 (2005) 『人称詞の研究 社会ネットワーク理論の観点から—和歌山県紀南地方の一親族の事例より—』[未公開博士論文] 国際基督教大学

(4) 迫田 久美子, 松見 法男 (2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) —音読練習との比較調査からわかること—」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 241-242.

(5) 日本語教育学会『日本語教育』投稿要領 <http://www.nkg.or.jp/pdf/toukouyoryo.pdf> (2020 年 11 月 30 日)

(6) 日本 花子, 東京 次郎, 大阪 美子 (編) (2006) 『上級者のための日本語 (2) —読解編—』日本語教育書房

(7) 松見 法男 (2002) 「第二言語の語彙を習得する」海保 博之, 柏崎 秀子 (編) 『日本語教育のための心理学』6, 新曜社, 97-110.

(8) 横山 紀子 (2008) 『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』ひつじ書房

(9) レイヴ ジーン, ウェンガー エティエンヌ (1991), 佐伯 胖 (訳) (1993) 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』産業図書

(10) Anderson, J. R. (1983). *The architecture of cognition*. Harvard University Press.

(11) Coxhead, A. (2000). A new academic word list. *TESOL Quarterly*, 34(2), 213-238.

(12) MacWhinney, B. (1989). Competition and connectionism. In B. MacWhinney & E. Bates (Eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp. 422-457). Cambridge

University Press.

- (13) Matsushita, T. (2012). *In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach* [Doctoral dissertation, Victoria University of Wellington].
<http://researcharchive.vuw.ac.nz/xmlui/handle/10063/4476> (March 11, 2020)
- (14) Naismith, B., Han, N., Juffs, A., Hill, B., & Zheng, D. (2018). Accurate measurement of lexical sophistication with reference to ESL learner data. In K. E. Boyer & M. Yudelson (Eds.), *Proceedings of the 11th International Conference on Educational Data Mining* (pp. 259–265). International Educational Data Mining Society.

5-2 英文論文での書き方

- 論文原稿の最後に、章番号をつけずに References という見出しをつける。資料を載せる場合は、References の後に、Supplemental Materials という見出しをつける。
- 各文献の冒頭には、括弧付きの通し番号をつける。
- 英文論文の参考文献は、日本語文献と外国語文献とを区別せず、第一著者の姓のアルファベット順に配列する。
- 英語で書かれた文献の情報を記す場合は 5-1 の和文論文での記載例を参照し、英語以外の言語で書かれた文献の情報を記す場合は以下のルールを参照すること。なお、本文中での引用の際はアルファベットで表記すること。

1) 著者名

アルファベットによる記述を原則とする。必要に応じて、日本語名や中国語名など、アルファベット以外の文字を使用する名称の場合もまずアルファベットで記し、直後に原語表記を角括弧 [] に入れて表示する。

2) 文献名

- 原語表記に英訳がある場合は英訳を示すことを原則とする。
 - 英訳がない場合は、原語をアルファベットで（日本語であればローマ字で）表記する。
 - アルファベットは原著や原出版社名に固有の表記がある場合以外は、ヘボン式を原則とする。長音・二重母音の表記法は特に定めないが、論文内で統一する。
 - 英訳がある場合もない場合も原語表記を角括弧 [] に入れて表示する。
 - 書名や雑誌名など、イタリック体を使用すべき部分は、言語に関係なく、原題も英訳もイタリック体にする。
- 英文論文 References の英語以外の言語で書かれた文献の記載例（以下のローマ字表記は一例）

1) 単行本

書名に英訳がある場合（出版社名に固有のローマ字表記がない場合）

National Language Research Institute [国立国語研究所]. (1984). *A study of fundamental vocabulary for Japanese language teaching* [日本語教育のための基本語彙調査]. Shuei Shuppan [秀英出版].

書名に英訳がない場合（出版社名に固有の字表記がある場合）

Suzuki, S. [鈴木 修次]. (1981). *Nihon kango to Chugoku: Kanji bunkaken no kindai* [日本漢語と中国：漢字文化圏の近代化]. Chuokoronsha [中央公論社].

2) 単行本<分担執筆>

Matsumi, N. [松見 法男]. (2002). Daini-gengo no goi o shutoku suru [第二言語の語彙を習得する]. In H. Kaiho & H. Kashiwazaki [海保 博之, 柏崎 秀子] (Eds.), *Nihongo kyoiku no tame no shinrigaku* [日本語教育のための心理学] (pp. 97-110). Shinyosha [新曜社].

3) 雑誌論文

論文雑誌名に英訳がある場合

Butler, Y. G. [バトラー 後藤 裕子]. (2010). A list of Japanese academic vocabulary for

elementary and junior high school students in Japan [小中学生のための日本語学習語リスト (試案)]. *Studies in Mother Tongue, Heritage Language, and Bilingual Education* [母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究], 6, 42-58.

論文雑誌名に英訳がない場合

Kabashima, T. [樺島 忠夫]. (1955). Ruibetsu shita hinshi ni miru kisokusei [類別した品詞に見る規則性]. *Kokugo Kokubun* [国語国文], 250, 385-387.

4) 教科書

Nihon, H., Tokyo, J., & Osaka., Y. [日本 花子, 東京 次郎, 大阪 美子] (Eds.), (2006).

Jokyusha no tameno Nihongo (2): Dokkaihen [上級者のための日本語(2)―読解編―].

Nihongo Kyoiku Shobo [日本語教育書房].

5) インターネット情報

Society for Teaching Japanese as a Foreign Language [日本語教育学会]. Tokoyoryo・

FAQ [投稿要領・FAQ]. <http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq> (June 2, 2017)

投稿時には、この手引きと合わせて「[論文投稿FAQ](#)」も必ず参照し、「ダウンロード用原稿書式」に則って論文を作成してください。この手引きおよびFAQで言及されていない点については、APA（アメリカ心理学会）マニュアル最新版（2020年3月現在、第7版）に規定されている方式に準ずる方法を採用してください。

公益社団法人日本語教育学会学会誌委員会（2023年11月改訂）